

尊厳死について

3 すべての人に
健康と福祉を



上田染谷丘高等学校 1年 林 真愛

1,テーマ設定の理由

私には昔、寝たきりのひいおばあちゃんがいました。

「寝たきり」というのは自分で体を動かさず介護がないと生きていけない状態のことです。しかも、彼女は喋れない状態で意思疎通ができませんでした。もし私が彼女だったらと考えると生きていたくないと感じると思います。

しかし、家族にとっては長生きしてほしいと考えると思います。

そこで一つの選択肢として尊厳死を考えてみました。

2, 尊厳死とは

尊厳死は、延命治療を施さずに自然な最期をむかえることです。

積極的に疾患を治すための治療は行いませんが、苦痛を和らげるための緩和ケアを施したうえで、死を迎える状況を表します。

尊厳死を迎えるうえでは、「死期が近い」「本人が文書などで尊厳死の希望を表明している」「家族も同意している」といったことが前提です。



3,現状と課題 (1)

・日本では尊厳死は法整備されていない(グレーゾーン)

「しかし、回復する可能性のない患者本人、または家族が延命中止を明確に希望すれば、延命中止することはある。」

「だから、医師が訴えられる可能性がある。」

尊厳死が実現できないと

・延命治療によって苦しむ可能性がある

・人工呼吸器や、胃ろうなどさまざまな管を繋がられて最期を遂げるのは本人が望まないかもしれない



3,現状と課題(2)

「日本の90%の人は延命治療をうけたくない」

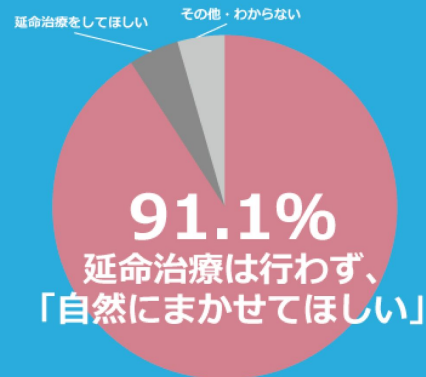
これから高齢化が進み高齢者が増える。

そして医療技術もどんどん進歩していく。

その中で尊厳死ができないとなると、もう死ぬのに色々な管に繋がられて無理やり生きさせられるのは人間として扱われてないような気がする。

そうなったらお金もかかるし誰が特をするのでしょうか。

日本人の90%は「延命治療を受けたくない」



4, 提案

・いつ自分が寝たきりになってしまうか分からないので、もし意思疎通できなくなった状況において、意に沿わない、死期を引き伸ばすだけの措置を

うけたくない場合は**リビング・ウィル**を書くのを
おすすめします。

* **リビング・ウィル**とは終末期医療をどうしたいか意思表示するためのもの

・死について家族などと話しておくのも大事です

<https://www.solasto.co.jp/company/solastoonline/toprunner-5.html>

図表 尊厳死を希望する際の文面案

リビング・ウィル — Living Will

— 終末期医療における事前指示書 —

この指示書は、私の精神が健全な状態にある時に私自身の考えで書いたものであります。

したがって、私の精神が健全な状態にある時に私自身が破棄するか、または撤回する旨の文書を作成しない限り有効であります。

- 私の傷病が、現代の医学では不治の状態であり、既に死が迫っていると診断された場合には、ただ単に死期を引き延ばすためだけの延命措置はお断りいたします。
- ただしこの場合、私の苦痛を和らげるためには、麻薬などの適切な使用により十分な緩和医療を行ってください。
- 私が回復不能な遷延性意識障害（持続的植物状態）に陥った時は生命維持措置を取りやめてください。

以上、私の要望を忠実に果たしてくださった方々に深く感謝申し上げますとともに、その方々が私の要望に従ってくださった行為一切の責任は私自身にあることを付記いたします。

5,感想

私はまだ若いですが身近に「死」があったのでそれについて考えることができました。「死」というのはなかなかデリケートな問題ですがすこしずつ向き合っていきたいです。

皆さんもいつかは必ず向き合わなければいけない時が来ます。

そのときにそなえて今から「死」について考えてみてはどうでしょうか。

